



（右より）半田 UNV、アムコンゴ UNFPA 代表代理、西牧大使、レティンヤ同職員

令和 4 年 10 月 6 日、西牧大使はアムコンゴ（Ms. Loide Amkongo）当地 UNFPA 代表代理から、「誰も取り残さない：ナミビアにおける避難民と新型コロナウイルスの拡大に関連する緊急事態における保健の不足の補填及びジェンダーに基づく暴力への対処」に係る中間報告を受けました。

ナミビアは若年層による望まない妊娠が非常に多く、誰もが安全な避妊手段にアクセスできることは、同国の貧困削減にも大きく寄与します。日本政府は、UNFPA を通じて、誰一人取り残さないプロジェクトに約 463,000 米ドルの資金を提供し、脆弱な女性や少女、特に障害を持って生活している女性や少女、妊娠中や授乳中の女性、性的暴力やジェンダーに基づく暴力を受けやすいその他のグループなどに焦点を当てており、このキャンペーンを通じて避妊及び生殖に関する健康キットや避妊器具を供与しています。

アムコンゴ代理代表によると、現在計画どおりナミビアの全 14 州のうち 8 州においてプロジェクトが展開されており、プロジェクト完了時には、UNFPA を通じた日本の支援により、ナミビア国内の 70,000 人余りの女性たちが裨益する見込みです。